

会社の概要 (平成28年9月30日現在)

会社名 株式会社シモジマ
英訳名 SHIMOJIMA Co.,Ltd.
創業 業 大正9年
設立 昭和37年4月26日
資本金 1,405百万円
本社 東京都台東区浅草橋五丁目29番8号
TEL 03-3864-0061 (代表)
従業員数 803名 (連結・正社員)

株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行済株式総数 24,257千株
発行可能株式総数 67,000千株
株主数 4,970名

UD FONT 見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



本報告書は以下のような環境配慮をして印刷・製本しています。
製版工程では、使用後に廃材となるフィルムを使用しない、ダイレ
クト製版 [CTP (Computer to Plate)] を用いています。

印刷工程では、VOC (揮発性有機化合物) の発生が少なく生分解
性や脱墨性に優れた植物油インキを使用しています。

株式会社 シモジマ

〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-29-8
TEL.03 (3864) 0061 (代表) FAX.03 (3865) 4470
URL <http://www.shimojima.co.jp/>

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領
株主確定日 3月31日
中間配当金受領
株主確定日 9月30日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所 東京証券取引所 (第一部)
単元株式数 100株
公告の方法 電子公告の方法により行います。但し、電
子公告によることができない事故その他や
むを得ない事由が生じた場合は、日本経済
新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.shimojima.co.jp/>

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつ
きましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で
承ることとなっております。口座を開設されています証券会社等にお問
い合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱
いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱
UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口
座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問い合わせください。なお、三菱
UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いい
たします。



SHIMOJIMA

株主の皆さまへ

第56期中間事業報告書
(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

株主の皆さまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 第56期中間事業報告書（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におきましては、原材料安、原油安の影響もあり、緩やかな回復が継続しております。

このような市場環境のもと当社グループは、基本理念であります「お客様のニーズに迅速かつ的確にお応えする」ことを基本に、販売体制の強化、仕入価格の低減、合理化推進による経費削減等、収益の確保を目指し全社一丸となって諸施策に取り組んでおります。

当中間期における業績につきましては、「当中間期の概況」に記載しておりますとおり、連結売上高は227億4千万円と前年同期比2.7%の減収となり、損益面につきましては、連結営業利益5億50百万円、連結経常利益5億85百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億28百万円となりました。

中間配当につきましては、1株につき普通配当11円といたしたいと存じます。なお、通期では合計22円を予定しております。株主各位のご理解を賜りたくお願い申し上げます。

下期の見通しにつきましては、急激な円安、原油高等による輸入価格の上昇などやや不透明な状況が続くものと予想されます。

当社グループでは経営基本理念に則り、将来の成長を確実にしていくため事業の拡大、経営基盤の強化等を図ってまいりたいと存じます。今後とも当社グループの事業に格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月



代表取締役社長

下島 和光



社是

・誠意・熱意・創意

経営理念

- 一、包装用品とこれに関連する事業を通じ快適な社会づくりに貢献する
- 一、常に顧客のニーズに応え創意工夫による市場拡大に努める
- 一、たえず経営の合理化と積極販売に努力し企業の発展を図る
- 一、社員の楽しく健康的な生活を確保する

■当中間期の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、急激な円高や株安の進行に伴う景気の下振れ懸念に加え、中国経済をはじめとした海外景気の減速等、企業収益や個人消費などにも足踏み状態が見られます。当社グループが属する業界においても、消費マインドの低迷は続いており、景気回復が実感されるまでには至っておらず、先行きは依然として不透明な状況にあります。

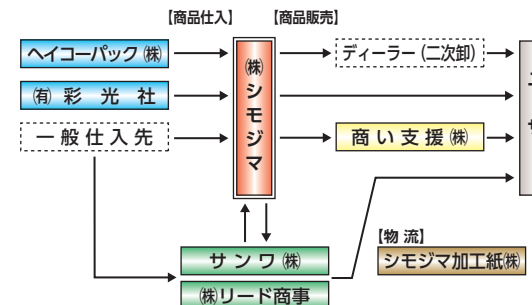
このような状況のもとで、当社グループは基本理念である「お客様のニーズに迅速かつ的確にお応えする」ことを基本に、販売体制及び利益基盤の強化に取り組んでまいりました。営業販売部門においては、引き続き重点業界における新規開拓及びオリジナルブランド商品の拡販に注力するとともに、特注品の受注獲得にも注力いたしました。また、パッケージプラザ事業においては、各パッケージプラザの店舗指導及び販売促進支援活動を継続いたしました。店舗販売部門においては、基本の徹底と販売員教育の強化を継続して進めるとともに、店舗販売と通信販売の連携強化を図ってまいりました。また、直営店舗として4月に埼玉県川口市に川口店を、7月に大阪市北区堂島に西梅田店をそれぞれオープンいたしました。

しかしながら、グループ全体での売上においては、前年同期の売上を確保することができませんでした。

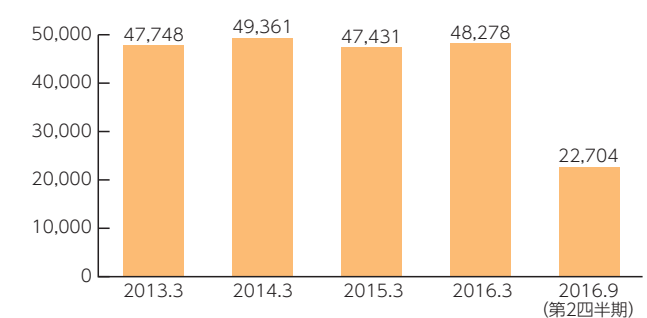
利益面においては、化成品関連商品の粗利率が改善されたこと、販売費及び一般管理費は前年同期並みの水準であったことにより、前年同期を上回ることができました。

この結果、連結売上高は227億4千万円(前年同期比2.7%減)、連結営業利益は5億50百万円(前年同期比49.3%増)、連結経常利益は5億85百万円(前年同期比43.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億28百万円(前年同期比84.5%増)となりました。

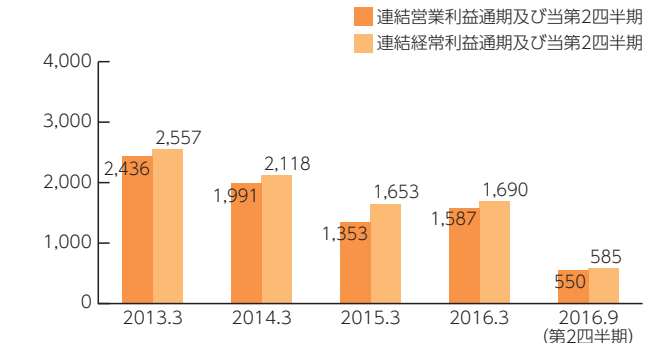
●事業の系統図



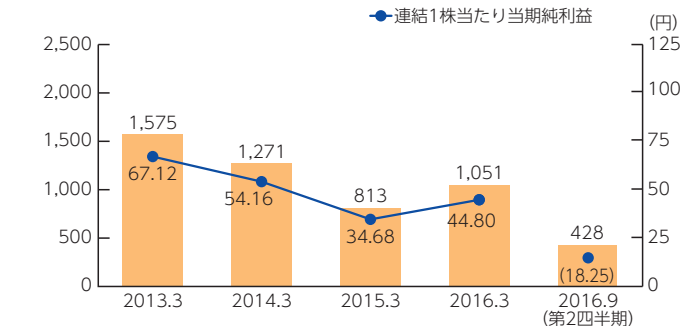
●連結売上高



●連結営業利益・連結経常利益



●親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益 連結1株当たり当期(四半期)純利益



記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

事業セグメントの概況

〔紙製品事業〕

連結売上高43億22百万円
(前年同期比△1.3%)

紙製品事業は、当社の創業以来の主力事業としてオリジナルブランドの紙袋・包装紙・紙器を中心に販売しております。新商品の開発を含む既製品の拡販と特注品獲得に注力いたしましたが、通販業者等が異業種参入し価格競争が激化したため、前年同期の売上を確保するまでには至りませんでした。

<主要な商品>

紙袋、包装紙、紙器



〔化成品・包装資材事業〕

連結売上高122億50百万円
(前年同期比△3.4%)

中核の化成品事業においては、継続して顧客ニーズに適合した商品開発と拡販に努め、特に重点業界向けの食品関連包材や農業資材関係の新商品開発を進めました。しかしながら、主力の化成品は低価格商品への移行が進み、前年同期の売上を確保するまでには至りませんでした。

<主要な商品>

ポリ袋、粘着テープ、その他包装資材等



〔店舗用品事業〕

連結売上高61億31百万円
(前年同期比△2.5%)

「店舗及びオフィスで使用するあらゆるものが揃う」をコンセプトに事業展開している店舗用品事業は、重点商品である文具・事務用品の積極的な新商品導入及び拡販の強化を継続してまいりました。しかし、イベント関連商品の需要減及び量販店や通販業者等との競争激化により、前年同期の売上を確保するまでには至りませんでした。

<主要な商品>

文具事務用品、POP用品、店飾雑貨等



◆第2四半期セグメント情報 (要旨) (平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	紙製品	化成品・ 包装資材	店舗用品				
売上高							
外部顧客への売上高	4,322	12,250	6,131	—	22,704	—	22,704
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	5	—	391	397	△397	—
計	4,322	12,256	6,131	391	23,101	△397	22,704
セグメント利益	456	705	120	11	1,294	△743	550

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、内容は物流事業であります。

2. セグメント利益の調整額△743百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

1. 新規店舗 シモジマ川口店・西梅田店オープン!



▲シモジマ川口店



▲シモジマ西梅田店

当社は当事業年度もお客様の利便性を高めるべく新規出店をいたしました。

4月にJR川口駅より徒歩10分の立地に『シモジマ川口店』、7月にJR大阪駅より徒歩10分の立地に『シモジマ西梅田店』をオープンいたしました。

「シモジマ川口店」は関東地区8店舗目の直営店として埼玉県で2番目に人口の多い川口市への初出店です。包装用品、文具事務用品、店舗用品、食品包装資材を中心に取り揃え、商店街近隣の好立地。1階約100坪のワンフロアのゆったりとした売場と8,000アイテムの品揃えで物販店・飲食店等のお客様のご要望にお応えします。

「シモジマ西梅田店」は関西地区7店舗目の直営店となる西日本最大商圏である梅田地区への初出店です。10路線(JR環状線・神戸線・京都線、地下鉄御堂筋線・谷町線・四ツ橋線、阪急電鉄神戸線・京都線・宝塚線、阪神電車)から来店可能で地下商店街直結の駅に近い好立地。専門性の高い8,000アイテムの品揃えと、短時間で買い物できるコンパクトな店舗レイアウトで、物販店・飲食店・オフィス等のお客様のご要望にお応えします。

2. 環境に対応した新商品開発

当社は環境に対応した独自の商品開発を行っております。

「ライナー原紙を使用したスムーズバッグ」は一味ちがうナチュラルな風合いにこだわった紙袋です。コットンやジュートなどの素材に見えるような柄でライナー紙を使用し厚みがあり丈夫な素材を使った環境対応商品です。

「ふあるかたぼくす」はファルカタ材という植林木を使用しており、環境に優しい食品用の木製容器です。お弁当・スーパー・食品店・惣菜店・和洋菓子店等におすすめの商品です。

いずれも新素材を使用した商品として注目を集めております。



▲ライナー原紙使用
スムーズバッグ



▲ふあるかたぼくす

3. グループでの電力消費状況

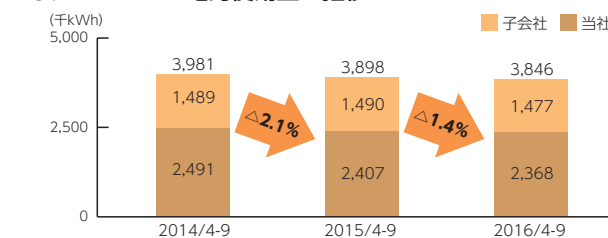
当社グループでは、引き続き電力使用量の抑制に取り組んでおります。当中間期におけるグループ電力使用量は、3,846千kWhとなり、前年同期比1.4%の減少となりました。

その主な要因としたしましては、省エネ設備の導入により、本社増築分の稼働による消費増を抑制し、大規模店舗の消費を削減できたことが挙げられます。

当社は、併せて「使用面積当たりの電力使用量」を原単位として管理していますが、本年度の夏期は猛暑となりましたが、節電意識の浸透を進めた結果、当社単体では52.74kWh/m²、グループ全体でも31.08kWh/m²と、数値を抑制することに成功いたしました。

今後も節電に取り組んでまいります。

●グループでの電力使用量の推移



※1. 賃借店舗・事業所での電力使用量も含まれています。

※2. 千kWh未満及び小数点2位以下を切り捨てて表示しております。

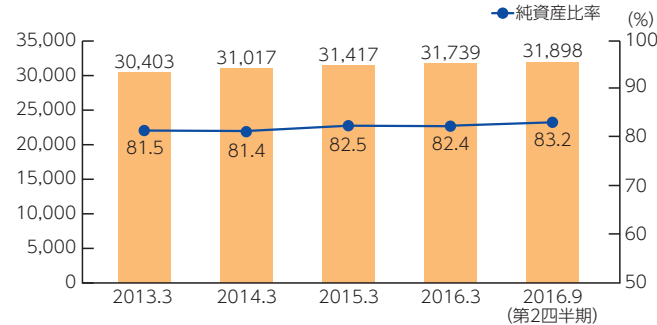
◆第2四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期 (平成28年 9月30日現在)	前期 (平成28年 3月31日現在)	科目	期別	当第2四半期 (平成28年 9月30日現在)	前期 (平成28年 3月31日現在)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産		20,983	20,766	流動負債		4,303	4,556
1 現金及び預金		9,119	8,864	支払手形及び買掛金		2,222	2,169
2 受取手形及び売掛金		5,457	5,645	未払法人税等		241	470
商品及び製品		5,177	5,006	賞与引当金		374	354
原材料及び貯蔵品		582	549	役員賞与引当金		18	22
その他		655	710	その他		1,445	1,539
貸倒引当金		△8	△10	固定負債		2,105	2,165
固定資産		17,323	17,695	退職給付に係る負債		1,005	988
有形固定資産		14,188	14,336	その他		1,100	1,177
3 建物・造作設備・機械設備		5,247	5,361	負債合計		6,408	6,721
土地		7,361	7,361	(純資産の部)			
その他		1,579	1,612	株主資本		38,138	37,968
無形固定資産		501	631	資本金		1,405	1,405
3 ソフトウェア		328	435	資本剰余金		1,304	1,304
その他		173	196	利益剰余金		36,307	36,137
投資その他の資産		2,633	2,726	自己株式		△879	△879
1 保険積立金		1,554	1,683	その他の包括利益累計額		△6,276	△6,276
その他		1,229	1,180	その他有価証券評価差額金		146	134
貸倒引当金		△150	△137	繰延ヘッジ損益		△197	△182
				土地再評価差額金		△6,195	△6,195
				退職給付に係る調整累計額		△29	△32
				非支配株主持分		36	48
資産合計		38,307	38,461	純資産合計		31,898	31,739
				負債・純資産合計		38,307	38,461

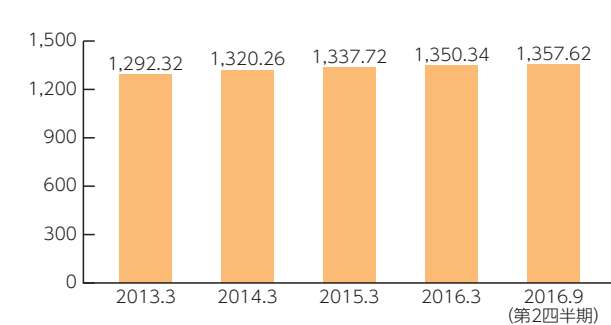
●連結純資産・純資産比率

(単位:百万円・%)



●連結1株当たり純資産額

(単位:円)



■連結財務状況(前期末比)

Point 1

現金及び預金 9,119百万円(+255百万円)
 保険積立金 1,554百万円(△128百万円)
 主な要因は、役員保険の解約とそれによる返戻及び納税の減額です。

Point 2

受取手形及び売掛金 5,457百万円(△188百万円)
 主な要因は、当第2四半期末の売上の減少です。

Point 3

建物・造作設備・機械設備 5,247百万円(△114百万円)
 ソフトウェア 328百万円(△107百万円)
 主な要因は、減価償却です。

Point 4

未払法人税等 241百万円(△228百万円)
 主な要因は、納税による減少です。

Point 5

純資産 31,898百万円(+159百万円)
 主な要因は、利益剰余金の増加(+170百万円)です。これにより自己資本比率は83.2%となります。

◆第2四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前第2四半期 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高		22,704	23,344
売上原価		15,503	16,267
売上総利益		7,200	7,076
販売費及び一般管理費		6,650	6,708
営業利益		550	368
営業外収益		96	103
営業外費用		60	63
経常利益		585	408
特別利益		54	16
税金等調整前 四半期純利益		640	424
法人税等		223	191
四半期純利益		417	232
非支配株主に帰属する 四半期純利益又は 非支配株主に帰属する 四半期純損失(△)		△ 11	0
親会社株主に帰属する 四半期純利益		428	232

◆第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前第2四半期 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー		646	429
投資活動による キャッシュ・フロー		△ 179	△ 339
財務活動による キャッシュ・フロー		△ 326	△ 486
現金及び現金同等物に係る 換算差額		△ 35	△ 3
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)		105	△ 399
現金及び現金同等物の 期首残高		8,854	8,204
現金及び現金同等物の 四半期末残高		8,959	7,805

■連結貸借対照表での現金及び預金の第2四半期末残高は、容易に換金可能であり、取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
 ■なお、財務諸表の金額については百万円未満を切り捨てて表示しております。

◆連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)(単位:百万円・円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
49,100 (1.7%)	1,750 (10.2%)	1,840 (8.8%)	1,100 (4.6%)	46.87

(%表示は対前期増減率)

役員一覧(平成28年9月30日現在)

代表取締役社長	下島 和光	社外取締役	船井 勝仁	上席執行役員	石川 雅秋
取締役常務執行役員	横山 庄蔵	社外取締役	梅野 勉	上席執行役員	下島 謙司
取締役常務執行役員	下島 公明	常勤監査役	桑子 幸彦	執行役員	工藤 弘行
取締役上席執行役員	笠井 義彦	常勤監査役	古橋 孝夫	執行役員	加藤 吉信
取締役上席執行役員	下島 雅幸	社外監査役	佐藤 裕一	執行役員	川原 利治
取締役上席執行役員	小野 寺 仁	社外監査役	榎本 峰夫	執行役員	服部 進吉

当社は、平成26年6月24日より執行役員制度を施行しています。